

## 93 石岡繁雄の名古屋帝国大学卒業記念品

昨年末、三重県在住の石岡あづみ氏より、お父上の石岡繁雄氏（以下敬称略）が所蔵していた名古屋帝国大学卒業記念品が大学文書資料室に寄贈されました。

石岡（旧姓若山）繁雄（1918-2006）は、第八高等学校時代から山岳部に所属し、戦後には穂高の屏風岩を正面から初登攀するなど登山界で活躍した人物で、名古屋大学山岳会の会長も務めていました。また、1955（昭和30）年に「ナイロンザイル事件」で実弟を亡くしたことで、それ以降は社会的な側面でも注目されました。

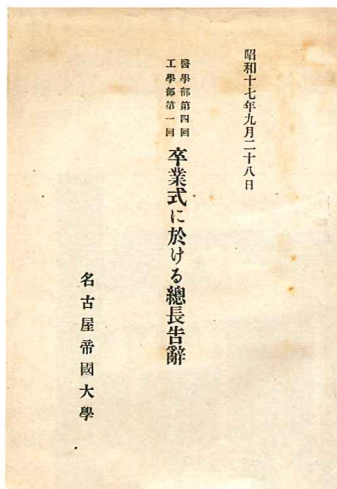
石岡は1940（昭和15）年、名古屋帝国大学理工学部電気学科に第一期生として入学しました。この年入学の学生は、戦争の影響から在学期間が急きょ短縮され、卒業式が執り行われたのは1942年9月28日のことでした。突然のことだったので卒業生を一堂に集めた卒業式はできず、そのため当時総長だった澁澤元治は、自分のおこなった告辞を印刷

したものを配布して対応しました。

こうした慌ただしい卒業式でしたが、石岡家にはこの時の卒業記念品の抹茶茶碗がほとんど使われることなく、そのままのかたちで保存されてきました。

茶碗は美濃焼の一種である鼠志野で、茶碗を入れる小箱のふたの裏に「名古屋帝国大学卒業記念 若山繁雄」と書かれています。茶碗の作者は加藤春二（1892-1979）という陶芸家で、茶碗には「崑（喜）茶吸露」と読むと思われる四字と鳥の絵が描かれていました。今回寄贈いただいたのはこの茶碗です。

ただ、この茶碗は大学が全学生に配布したものか、理工学部（工学部）のものなのか、もしくは個人的な記念品かなどの情報はまだ不明です。詳しい情報をおもちのかたはぜひご連絡ください。



- |   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
|   |   | 4 |
|   |   | 5 |
- 1942（昭和17）年9月28日の卒業式における澁澤元治による総長告辞の印刷され配布された小冊子の実物。（石岡あづみ氏所蔵）
  - 石岡繁雄氏（86歳当時のもの。石岡あづみ氏所蔵）。第八高等学校を経て名古屋帝国大学理工学部電気学科を卒業し、戦後は三重県立旧制神戸中学（現神戸高校）の物理学教師に着任。そこで山岳部を創設し、生徒2人とともに穂高屏風岩を正面から初登攀。広くその偉業が知れ渡った。  
1950年には名古屋大学学生部の職員となる。1955年の「ナイロンザイル事件」はその後の石岡の安全に対する信念とその立証に影響を与えた。またこの事件の体験は井上靖の小説『氷壁』のモチーフにもなったことでも知られる。
  - 名帝大理工学部時代の石岡繁雄（写真左）。
  - 小箱に入った茶碗。ふたの裏には「名古屋帝国大学卒業記念 若山繁雄」と書かれています。
  - 茶碗に書かれている四字。「崑茶吸露（きちゃきゅうろ）」かと思われる。左の文字は「筆」で、その下にこれを書いた人の判が押されている。

### 名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課（基金事務局）あて（電話 052-789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp）をお願いいたします。